

各候補者からの抱負・公約等

武藤 弘樹（むとう ひろき） 1997年6月生まれ 26歳

日本代表として出場した国際大会：2020年東京オリンピック競技大会（2021年7月）

私がアスリート委員に当選したら、現状の改善に対する意見を発信することはもちろん、日本全国のアーチェリーに関わる方から意見を集める施策を進め、居心地の良いアーチェリー界を実現します。そして、社会貢献活動やSNSを使った広報を通じて、日本社会全体とアーチェリー界を繋げることで、競技認知度向上や競技人口増加に結びつけていきます。また、若年層に向けた強化支援策も進め、現状に満足するだけでなく、未来の日本のアーチェリー界に向けた施策を進めていく所存です。前任期では、これらの施策に繋がる話し合いを進めて参りました。このような会議も皆さんの目につく形にはありませんでしたが、変革への地盤は確実にできていると考えております。前期で築いた地盤と経験を元に、強化・普及の両面から日本のアーチェリー界を発展させて参ります。

坂野 太一（ばんの たいち） 1989年12月生まれ 33歳

日本代表として出場した国際大会：世界フィールド選手権大会(2021年7月)

私は、前期のアスリート委員会での経験を活かして更にアーチェリーの普及発展に貢献したいと考えております。今期ではより選手と連盟の意思疎通が活発になるようアンケート活動をおこない、多様な意見を集約し活動に反映させたいと考えております。また、昨年の世界フィールド選手権に参加した際に世界とのペアボウに関する知識量が日本と世界との間で差があるように感じた経験から、特に世界との差がある CP・BB の世界基準の知識や技術を学ぶ機会の創出を提案したいと考えております。最後に、引き続き社会貢献事業などを通してアーチェリー競技のイメージ向上や社会的役割の拡大にも寄与できるよう様々なアイデアを出し、協力していきます。

三ツ山 香里（みつやま かおり） 1974年9月生まれ 49歳

日本代表として出場した国際大会：アジア競技大会広島大会(1994年10月)

中学生の時から現在まで 35 年以上アーチェリーを続けており、競技における幅広い経験があります。これにより、競技の進化や変化に対応し、アスリートの視点からの貴重な意見を提供できると考えています。アーチェリーは年齢に関係なく楽しめる生涯スポーツであると確信しています。現在でも競技を続けており、今後 20 年以上続けられると思っています。アーチェリーの普及と競技者の育成を通じて、多くの人々に生涯スポーツとしてのアーチェリーを提案し、支援していきます。日本代表としての経験があることから、競技アーチェリーを楽しむための知識も持っています。競技だけでなく、楽しむためのアーチェリーも大切に、両者の融合を促進します。

以上